

■関西P2M研究部会 2017年度分科会活動一覧

No.	起案 (主査)	テーマ	テーマ設定の背景 (事由等)	研究活動の概要 (やるべきことの概要及び最終成果物のイメージ等)	参加して欲しい会員の特徴 (参加メンバーの時間的余裕や資格取得、専門 性等の制約条項)	活動プラン (活動予定日、頻度、場所等)	備考
1	小田	強いチームづくり	<p>・2016年度は「実践力を実践する」というテーマを実施。マネジャー自身の実践力を高める取り組みを行い、ある程度の成果を得られた。</p> <p>・2017年度は、強いチームづくりの取り組みを行いたいと思ひ、新しい分科会を立ち上げたい。</p> <p>・プロジェクトも、プログラムもチーム力によって成否が大きく影響する。強いチームを作り上げることが、プロジェクトマネジャーの重要な役割となっている。</p> <p>・強いチームづくりのポイントを学び、実践してみて、強いチームづくりの勘所を体得し、実践できるようになりたい。</p>	<p>以下の3つのステップで活動する。</p> <p>①知識習得フェーズ P2Mで述べられている強いチームづくりの取組み内容を全員で学習し知識を得る。また、P2M以外での強いチームづくりの取組みについても学習する。</p> <p>②実践フェーズ 各自テーマを設定し、強いチームづくりに実際に取り組んでみる。テーマは、自己のプロジェクトだけでなく「なんでもあり」(プロジェクトでも、プログラムでも、定常業務でも、私生活でもなんでもOK)</p> <p>③まとめ・総括フェーズ 各自、その成果を振り返り、まとめる。各自の取組みをまとめ、本分科会の成果とする。</p> <p>なお、この分科会は2年間の活動としたい。</p>	<p>・「強いチームづくり」に興味のある方</p>	<p>・毎月1回 平日18:30か19:00 開催 ・場 所： メンバーの会社の会議室 公共の会議室</p>	<p>・公共の会議室を利用する場合は、費用発生する場合あり</p>
2	島尾 (戴) 春莉、 吉岡	「思いを形にする」 コミュニケーション	<p>コミュニケーションの理論、方法論、そして、実践経験などの研究は沢山あります。 しかし、グローバル情報社会の中、ビックデータ、Industrie 4.0、AIなどの発展により、単純に作業を実現することではなく、人間の行為に近づくような複雑な作業の実現も可能になってきています。</p> <p>人間の思いをどういう風に製造現場に、確実に伝えるのかは非常に重要なこととなります。 思いを文章に書き出すことは一つの方法ですが、使用する言語、書く人の文章力、読む人の理解力、書く時間、読む時間、真意が伝わるかどうか等々、グローバル社会に向かって、特定の言語(例えば、英語)で分かりやすい文章を書くのも大きい壁があると思います。</p> <p>「デザイン思考」は最近、IT分野でも注目されています。デザイナー達の以心伝心・以物伝心、「思いを形にする努力」は、ステークホルダーやPMチームの中、「共感」を呼び、従来の主観、ルール、習慣などを破るまでのイノベーションを起こしています。 デザイナー達のコミュニケーションは文章力に依存していません、人の感情を引き出すことができるので、一度、デザイナー達のコミュニケーションの仕方を学び、違う視点からコミュニケーション仕方を再考してみたい。</p>	<p>・デザイン思考を取り入れたコミュニケーションについて、ワークショップを取り入れながら、より実践的な方法を探る。</p> <p>・職種、国籍等に捉われないコミュニケーションを前提に、海外の方も交えた活動とする。 (説明図を添付)</p> <p><目標1> コミュニケーションのやり方の違いを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ デザイナー達のやり方 ■ 製造分野でのやり方 <p>上記を比較し、それぞれの特徴を知ること</p> <p><目標2> コミュニケーションのやり方の最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 文章力に依存しない ■ 共感と呼べる ■ 自然な無理のない <p>上記のいずれかを実現していること</p>	<p>資格等の制約はないが、現場経験のある方を望む。</p> <p>また、グローバル環境でのコミュニケーションを再現する為に、海外の留学生も本研究部会のパートナーとして呼ぶつもりなので、その旨承知した話しやすい方がよい。</p>	<p>開催場所は、京都</p> <p>時間は未定 (参加者達との相談)</p>	